



多彩な芸術活動を 総合的に紹介 2021年岩手県美術選奨受賞

美術家・佐藤清美氏は、本県を代表する美術家・故岩間正男氏とその晩年まで親交を重ねた。写真家としても知られる佐藤氏が、岩間氏の「静と動」の表情をとらえた写真には師を仰ぐまなざしが感じられる。

「パースペクティブそれ自体が美しいといった古典的な言葉がある。一中略一 画面から意味を排除し、言葉を駆逐した時、物それ自体とか、空間の物質化と呼ばれるものが登場するのだが、そこには最早、従来のパースペクティブは存在しない。その中であって、再び、空間にいかなる意味を付与するかが課題だといえる。それは空間に再び可能性をさぐることでもある。」

1986年に岩間氏が佐藤氏の個展に寄せた文である。そのパースペクティブで透明な空気感のあるアクリル画が近年の代表作「ENVIRONMENT-R」のシリーズで、この連作において2021年、岩手県美術選奨を受賞している。暖色（赤）と寒色（青）の対比も印象的なこのクリアな画面には、地球温暖化が叫ばれる現在、氏の環境への透徹した思いの強さを感じる。

佐藤氏は多彩な造形活動で知られる。毎年東京都美術館で開催される「新象展」に継続して出品し、同協会会員、東北事務局代表も務める。また、校章や団章のデザイン等を手がけるなど北上市を拠点とした活動も多くの市民が知るところである。

今、受け止めるメッセージ 前期企画展「光人とドン・キホーテ」

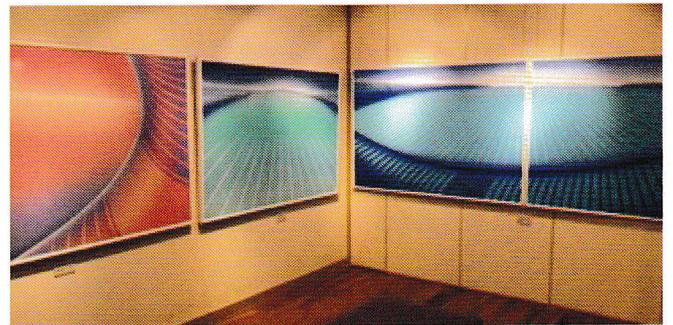
二か月にわたってドン・キホーテを特集した企画展を行った。初公開作品を含み、一般社団法人アルテトネヤマからの貸し出しも受け、展示内容は充実した。勇猛果敢かと思えば



哀愁や苦悩に満ちていたり、ドン・キホーテが見せる表情は多様であった。制作から20年を超える時を経て、今の世界情勢の中で我々が受け止めるべきメッセージ性も感じる内容であった。

令和4年度中期企画展

21世紀のメッセージ 佐藤清美展 2022年6月4日(土) - 9月1日(木)



さらに昨年はメンバーとして所属する団体の美術展「21世紀のメッセージ展」において「ENVIRONMENT-R」に加え、自身が撮影したオリンピックスタジアムの写真が同展のポスターや図録表紙などに採用された。この展示会は東京2020の参画プログラムとして認証されていたことから東京オリ・パラ組織委員会より感謝状が贈呈された。

今展はこうした佐藤氏の多面的な活動を総合的に認知していただく展覧会として企画した。作家本人とも語りながら想いを交流し合ってほしい。

来館者向けの説明のため、利根山光人画伯と美術館の年譜をながめることが時々ある。数年前着任したでの私は1921年生まれの画伯が2021年に生誕100年を迎えることに気づいた。しかも美術館が開館して25周年にも当たる。「これはもしかしたら大変なことなんじゃないか…」と軽い興奮状態となって関係者に触れ回ったものだ。さらには、企画展も数えれば50回目の節目に当たる。北上市は3大アニバーサリーのプロモーションが始まろうかというその時期に、美術館こそ3大アニバーサリーだったのだ!

もちろん、認識していた関係者もいるが具体的に事業が計画されていたわけではない。これはやり方によっては美術館を多くの方々にPRするビッグチャンスになるのでは、と期待に胸を大きく膨らませた。

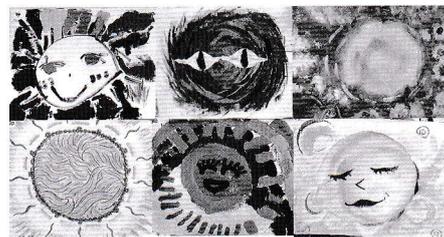
というのも、こうした小さな美術館は日常的に観覧者も多くはなく、広く認知されにくい。なんと言っても利根山画伯の魅力的な作品群を観覧いただきたいので、さらなる魅力的な美術館としてPRに向けて関係者の創意工夫が求められるところである。

そんな構想を膨らませつつ、記念の年へのカウントダウンは始まり、館運営の話題はこの100年事業に重心が移っていく。

そして2021年4月、利根山光人生誕100年・美術館開館25周年事業がスタートした。

話は2021年の12月、この記念すべき事業の終焉の時期へとポンと飛ぶ。通常、美術館は冬期閉館中のこの時期に100年事業はクライマックスを迎えようとしていた。市民参加型のイベント「美術館へ行こう! つながる太陽プロジェクト」の完成作品の披露が行われたのは12月25日のことだった。高橋北上市長はじめ関係各位の出席のもと、「わたしの太陽2021」と題された完成共同作品の除幕式がにぎにぎしく行われた。(次号に続く)

専任研究員



利根山光人生誕100年・記念美術館開館25周年記念特別企画展
「つながる太陽プロジェクト」完成共同作品展示会

「わたしの太陽2021」

in 北上市保健・子育て支援複合施設 hoKko (ほっこ)

2021年12月25日(土)~2022年3月25日(金) 10:00-21:00

「太陽の画家」利根山光人にちなみ、来館者の皆さんに思い思いの太陽の絵を描いていただきました。個々の作品をつないで共同作品とする「つながる太陽プロジェクト」の完成披露展示会を開催します。総作品数128枚、たて3m×よこ1.2mの巨大アートです。ぜひ会場に足を運んでご覧ください。

●観覧無料 ※12月29日(水)~1月3日(月)は休館日となります。
●主催 記念事業実行委員会 北上市 北上市教育委員会



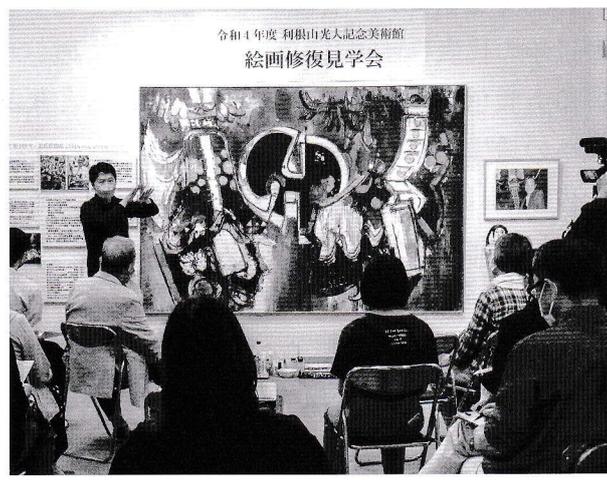
完成時の色彩が復活! 修復師 土師 広氏が実演

「絵画修復見学会」を開催 (R4.5.29)

「基本は画面の剥落(はくらく)部の修正、汚れ、カビを取り除く作業で、残っている部分に変更は加えません。修復の材料はオリジナルを傷つけずに簡単に除去できるもの。そしてどういった修復を行ったかの記録を残すことが原則です。」

昨年の記念事業の継続として、常設展示室に展示中の利根山画伯の作品「律動」と「原始76」2点の修復見学会を開催し、18人が参加しました。(株)土師絵画工房の土師広氏から、修復作業のポイントを実演を交えながら説明していただき、目の前でカビが除去され、画面がしっとりとし、完成当時の黒の復活に、見学者からは感嘆の声が漏れました。

きれいに修復された絵を、当館でぜひご覧ください。



彌恵子様安らかに...

令和4年5月29日利根山光人画伯の奥様彌恵子様がお逝去されました。彌恵子様からは画伯の作品を数多く寄贈いただくなど長年美術館を支えていただきました。平成28年6月18日には、美術館20周年記念式典・祝賀会にご出席いただき、美術館関係者と画伯や美術館への思いを語り合いました。今年3月2日100歳の誕生日には、ご家族でお誕生会をされたと聞き、元気なご様子に嬉しく思っていました。突然の訃報ですが、きっと彌恵子様は天国の光人画伯と再会を喜んでいることと思います。当美術館は、これからも画伯の作品を多くの方に見ていただけるよう尽力して参ります。